

研究主題

ICTを活用した、個別最適化された授業づくり
～ 自ら学び考える生徒の育成 ～

1. 主題設定の理由

(1) これまでの研究の経過

令和3年度(平成33年度)からは、全ての教科等で新学習指導要領が実施される。今回の指導要領改訂は、予測困難とされるこれからの時代を生徒たちが生き抜くための資質・能力を確実に育成することを目標としている。そのために「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を図ることが求められている。そこで本校では、平成30年度から、研究主題を「学びの自立を目指して」とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、3年間で研究を進めようとしてきた。

1年次(平成30年度)…「主体的な学び」

～生徒が主体的に学ぶには、『見通しと振り返り』～

2年次(平成31年度)…「対話的な学び」

～生徒が互いの考えを受け止め、『対話』を通して集団や個人の学びを深めるには～

3年次(令和2年度)…「深い学び」

～生きて働く知識にするには、『見方・考え方』～

(2) 主題設定の理由

今、私たちはかつてなく大きな社会の変革期にいる。

Society5.0は、人工知能(AI)、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方が劇的に変わることを示唆するものである。

そんな変革期に生きる生徒の育成を目指すべき資質・能力について、令和元年12月「新しい時代の初等中等教育の在り方」が中央教育審議会により、次のように示された。

【育成を目指すべき資質・能力】

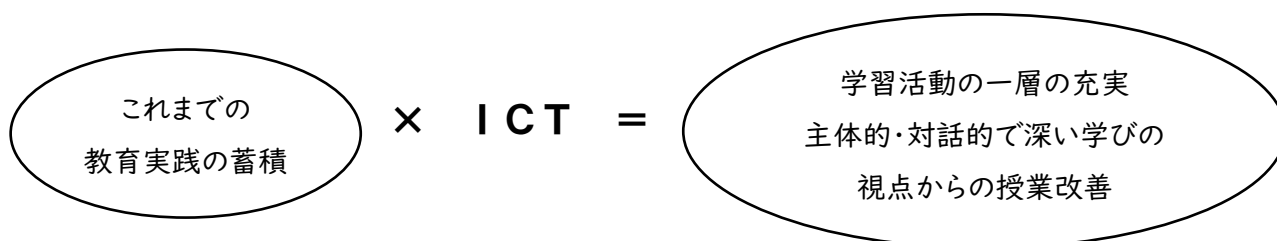
変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する。

このような教育を実現していくために、学校のチーム力を高め、学校における働き方改革を着実に進めるとともに、こらからの学びを支えるICTや先端技術の効果的な活用について検討されることが必要とされている。

子供たちが多様化する中、**誰一人取り残すことのない、個別最適化された学び**の実現には、教師を支援するツールとしての**ICT環境や先端技術が必要**になる。ICT環境や先端技術の効果的な活用により、次のことが可能になると考えられている。

- ① 学びにおける時間・距離の制約を取り払うこと
- ② 個別に最適で効果的な学びや支援
- ③ 可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成
- ④ 学校における働き方改革の推進

今までの研究で行ってきた「アクティブラーニングの視点による授業改善」に最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・生徒の力を最大限に引き出し、新たな授業スタイルが確立できると考えられる。



	今までの環境	「1人1台端末」の環境
一斉学習	・教師が大型提示装置等を用いて、説明する。	・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる。 ・双方向の一斉授業
個別学習	・全員が同じ内容を学習する。	・同時に別々の内容を学習する。
協働学習	・数名の生徒の発表。	・一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有。 ・生徒同士で双方向の意見交換。

そこで、本年度の校内研究では、今までの授業実践の蓄積とこれからのコンピューターの活用能力を
かけ合わせた、新たな学習指導の形をつくることを目指し、ICTの効果的な活用方法に重点をおいて研
究を進めたい。

2. 研究仮説

一人一台端末(タブレット)を活用することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された新たな学習指導の形を確立できる。

3. 研究仮説の検証

- ・タブレットを活用した一人一実践の授業を行う。
- ・タブレットの活用方法を示す。

4. 研究の内容

(1) タブレットを利用した一人一実践授業の実施

1学期:タブレットの活用 *別紙(タブレットの活用例)

タブレットに慣れる

夏休み:タブレット活用場面の意見交換

2学期:タブレットを活用した一人一実践の実施

3学期:成果と課題の検討・来年度の研究の方向性

(2) 2グループに分かれ、それぞれの授業者による研究授業

- ・ベテラン教員の授業実践の蓄積と若い教員のタブレット活用能力を生かした学び合い。
- ・感染症予防のため、オンラインでの授業観察の可能性もある。

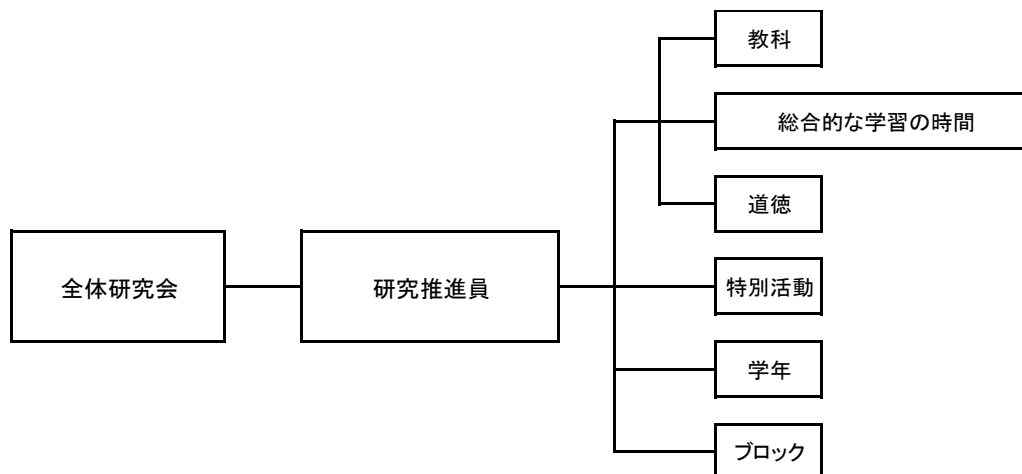
(3) 「考え、議論する道徳」の実践

- ・教科化に向けて評価方法を具体化する。
- ・新たな教科書を使用して、授業実践をすすめる。
- ・「親子道徳」で保護者に授業を公開する。10月16日(土)

(4) ハイパーQUを活用した学級・学年づくり

- ・ハイパーQUを年2回実施する。
- ・学級集団の傾向の分析や、個別の生徒の状態を見とる。

5. 研究の組織



*今年度は、研究授業を2回実施する。

*研究授業は2グループに分けて行う。

6. 研究の計画

第1回	4月14日(水)	全体会	今年度の研究について
第2回	5月24日(月)	全体会	今年度の研究について決定
第3回	6月23日(水)	学年研	ハイパーQU結果分析・手立ての検討
第4回	8月18日(水)	ブロック研	一人一実践の計画 各教科評価方法について 研究授業の指導案検討①
		全体会	教育課程還流報告 タブレット活用意見交換
第5回	9月24日	研究授業①	授業研究会
第6回	10月22日(金)	グループ研	研究授業の授業案検討②
第7回	11月19日(金)	研究授業②	授業研究会
第8回	1月26日(水)	学年研	ハイパーQU結果分析・手立ての検討
第9回	2月21日(月)	全体会	本年度の研究の成果と課題
第10回	3月14日(月)	全体会	来年度の研究の方向性